和（わ）　箒（ぼうき）

昭和 30 年代以降，家電「三種の神器」という言葉が流行し，日本人の生活は急激な変化を遂げてきました。その結果,普段なにげなく使ってきた日常生活の道具がいつの間にか消えてしまいました。

かつてはどんな町にもあった荒物屋，日常生活で使う様々な道具が所狭しと並べられ，吊り下げられていました。いまではあまり見かけなくなりましたが。

ところで，今回とりあげるのは和箒です。昔はどこの家にも 1 つや 2 つはあったものですが。

室内の掃除は，はたき，箒，雑巾がけというのが定番でしたが，電気掃除機の普及によって，日本での室内の掃除の仕方は，大きな変化をしました。というより，電気掃除機普及の頃から，日本での生活が急速に変わってきたことが大きいと思われます。かつて日本の家屋は畳が中心でしたし，夜は布団を敷いて寝室に，昼は布団をたたんで居間に，というのが普通の生活でした。朝,布団を押入れにしまうと，まずは箒で掃除。そういえば，その頃の家屋にはせいぜいタンスぐらいで，モノがありませんでした。布団をあげたあとの空間は広々としていました。

それが,昭和 30 年代の後半から，日本の家屋には道具,モノがあふれだします。また，洋間が増え，カーペット,じゅうたんなどの敷物も急速に普及し，部屋の真ん中にソファが置かれることようになりました。同時に電気掃除機も家庭になくてはならぬ道具になっていきます。和箒は室内掃除のメインの道具の位置を追われるようになったのです。

○和箒の材料

ここでとりあげる箒は，草箒，座敷箒などと呼ばれる室内用のものです。室外や土間で使うものに，庭箒，竹箒がありますが，室内で使う場合と，吐き出すホコリ,ゴミの種類が異なることから，おのずから使われる素材が異なります。竹箒は竹，庭箒は棕櫚が用いられますが，座敷箒に用いられるのは，ホウキモロコシと呼ばれるイネ科の植物です。

ホウキモロコシ　穂の部分を脱穀して用いる。

箒に用いることから箒草と呼ばれますが，ややこしいことに，これとは別にホウキグサという植物があります。ホウキギ（箒木)、ハハキギとも呼ばれるこの植物は，小枝が密生していてそのままでも箒として使えそうですが，秋には真っ赤な色になります。実際，乾燥して庭箒に用いられたそうですが，この実を東北地方では「とんぶり」と呼んで食べています。畑のキャビアとも呼ばれており，緑色をした粒がなかなか美しく，キャビアとはいかないものの，プチプチとした食感が楽しめます。

こちらが箒草です。右はトンブリの長芋和え

ホウキモロコシは食用にはならず、座敷箒を作るために栽培されるのですが、このような素材がなぜ選択されたのかは、なかなか興味深いところです。春に植え、夏に穂が熟す前に刈り取って脱穀し，穂先を乾燥、選別したものを，編み上げていきます。

箒の先端には穂先部分が使われますが，先端を切りそろえるタイプ，穂先をそのまま生かしたタイプがあります。畳を掃除するときは，畳の目に沿って掃くと，畳の目に詰まった埃を掻きだしながら掃除ができます。

箒としての機能を考えて、どのような形でどの程度の穂先を用いればいいかは、おのずと決まってきますが，形のほうは大体同じようなものになります。

柄の長さから長柄箒と手箒に分けられまが，特徴的なのは編み上げる形で，さまざまの形，編みあげる糸の配置など，人をひきつけるものがあります。この形、使う糸などは、産地によって異なるようです。

箒の命はもちろん先端部ですが、それを支える編みの構造には、それぞれ独自の工夫がなされていますし、そこに作り手の箒にこめる思いのようなものも感じられます。

左　江戸ほうき　右　鹿沼ほうき　下　南部ほうきとその穂先

おもしろいことに、このホウキモロコシは、主として関東から北の地域で用いられ、関西では、棕櫚（シュロ）を用いたのが主流であったといいます。そのため，ホウキモロコシを用いた座敷箒は江戸箒と呼ばれることもありました。

棕櫚箒のほうが歴史は古いとのことです。棕櫚という植物は、日本では九州地方南部では自生しますが、熱帯植物ですから、なかなか北の地方では手に入れるのが難しかったのかもしれません。棕櫚とホウキモロコシには、それぞれ特徴があり、棕櫚のほうが柔らか目、ホウキモロコシのほうか硬めで弾性があります。

棕櫚箒

このような天然素材を使っていく上では、箒としての機能を、素材のもつ硬さ、弾性として生かすとともに、それをうまく使いこなすような形―デザインも重要となると思います。合成繊維を使ってホウキモロコシの穂先のような，太さが一見そろっていないようなものを作るのは難しいのではないでしょうか。

なお、現在では、ホウキモロコシも棕櫚もほとんど国産品は用いられることはなくなったようです。ホウキモロコシに関しては、一部高級品に国産品が用いられていますが、電気掃除機よりも高価なものになっています。

箒は穂先が命ですから、吊るしておかなければなりません。これを逆さにしておくのは、長居のお客がきたときに、早く帰ってくれるためのおまじないです。箒が家のなかになくなった現在では、長居のお客を追い出すためにはどんなおまじないをしたらいいのでしょうか。　（八代啓一）

NPO スーパーコンポジット研究会

団体会員の皆様へ

四季報に貴社の製品・技術を紹介しませんか

スーパーコンポジット研究会では、団体会員への特典として、四季報への無料の製品紹介・技術紹介のページを設けています。
種類・内容を問いません。
内容を１ページ程度にまとめ、事務局にメールにて送信下さい。